

(国土交通省 HP 掲載資料)

仙台空港の優先交渉権者による提案概要

仙台空港民営化の目的を達成するためには



仙台空港の将来イメージ

プライマリー・グローバル・ゲートウェイ

東北を発着する旅客に一番に選ばれる
東北で最も重要な航空貨物の拠点となる

旅客数の目標値

	現在	5年後 (2020年度)	30年後 (2044年度)
旅客	324万人	410万人	550万人
国内	307万人	362万人	435万人
国際	17万人	48万人	115万人
貨物	0.6万t	1万t	2.5万t

1. 路線を増やし、航空需要を増やす

航空ネットワークの拡充

- 国際線**
 - 4時間圏の直行便拡充
 - 東アジアハブ路線の増便・大型化
- 国内線**
 - FSC(フルサービスキャリア)路線維持
 - 機材大型化
 - LCC(格安航空会社)新規路線拡充
- 貨物**
 - ハブ空港への機材大型化・デیلیー運航による輸送ルート確立
 - 港湾と連携したトラックによる共同配送網確立
 - 輸出支援策による貨物量の底上げ
- 官民連携**
 - 仙台空港国際化利用促進協議会の活動活性化
 - 地域と一体となった航空利用促進
 - エアライン支援策(就航路線PR)の実施

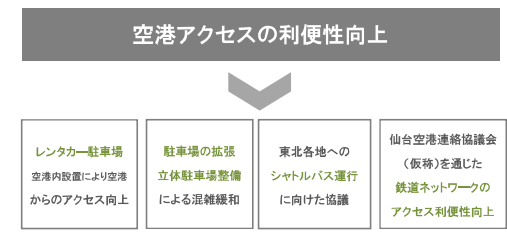
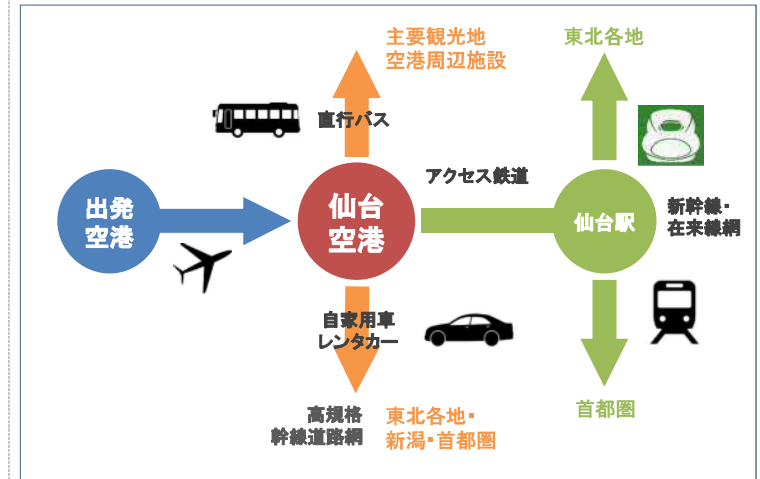


料金施策と施設整備

- 基本的な考え方**
 - エアラインと空港の「協働」
 - 旅客数・貨物量の増加促進
 - エアラインの就航意欲を喚起
- 具体策イメージ**
 - 旅客数減少時にはエアラインの料金負担を軽減する料金体系
 - 新規就航時等の割引制度
 - エアライン・利用者負担に配慮した施設整備

マルチモーダルハブ

航空ネットワークと複数の交通ネットワークが集結し、円滑に接続される結節点となる



東北ブランドの発信

東北ブランドとは

美しい四季のコントラスト 伝統文化 食の豊かさ

- ゴールドルート**の形成促進
 - 二次交通網整備
 - 旅行商品開発
 - プロモーション
- 仙台空港からの東北ブランド発信
 - 四季を感じる空港へ特産品の催事販売
 - ロケツアーリズム促進
- 東急グループとの連携
 - アジア商業施設での東北PR拠点化

仙台空港国際化利用促進協議会
東北観光推進機構との緊密な連携による
東北ブランド認知度向上に向けた取組の推進

2. 空港活性化と設備投資

「安心」「快適」「ホスピタリティ」の提供

国内最高レベルの旅客満足度の実現
 インフラとしての「安心」、楽しく過ごせる「快適」、
 うれしい驚きと感動を与える「ホスピタリティ」の、
 利用者の感じる3つの体験価値を高め、国内最
 高レベルの旅客満足度を実現。

旅客増加に先立つ
 十分なキャパシティの増強
 インフラの基本性能ともいふべき
 旅客のキャパシティを計画的に拡充。



設備投資総額 341.8億円

将来の空港イメージ

ピア棟の新設(旅客搭乗施設)

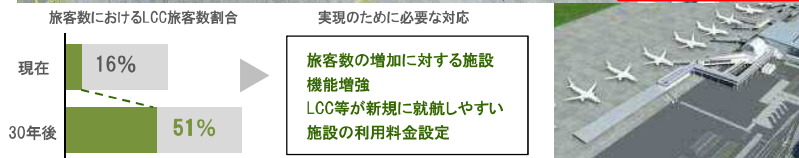
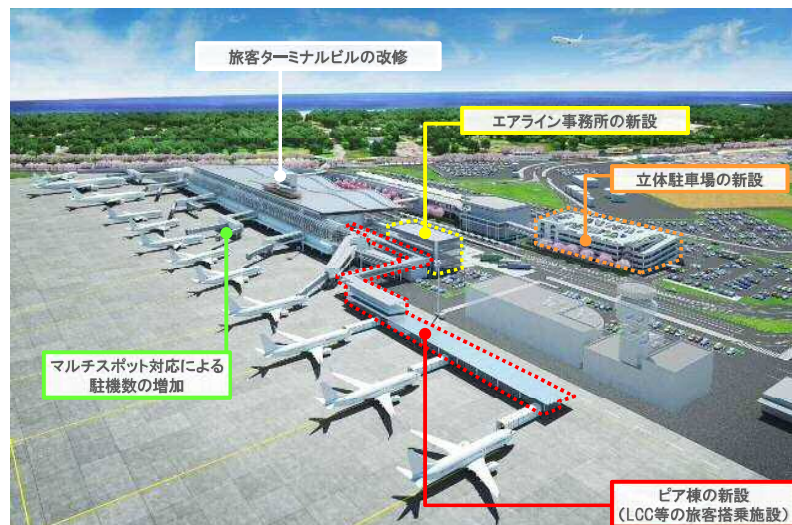
- ピア棟の新設により搭乗ゲートを増設
- マルチスポット対応による駐機数の増加
- 固定搭乗橋を設置しないことにより、エアラインが負担する搭乗橋使用料を削減し、LCC等の新規就航を喚起

旅客ターミナルビルの改修

- 東北ブランドを発信する物販や飲食等の商業店舗の拡充
- 保安検査場通過後エリアの店舗の拡充
- 安心かつスムーズな搭乗をサポートする設備機能の増強(サイン・フライトインフォメーションボードの改修、保安検査場待ち時間表示システムの導入等)



- 総合案内所の機能の増強(外国語対応・観光案内・二次交通案内やチケット販売等)
- 地域住民の方々等のための交流プラザやお迎えの方や到着旅客のためのアライバルカフェ設置

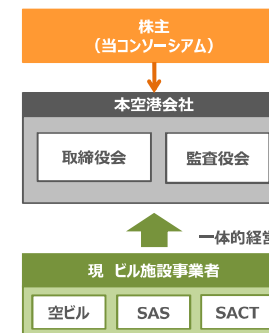


3. 高いサステナビリティの実現

事業実施体制

長期安定的なガバナンスの構築

- 地域の有識者の知見を活かすガバナンス
- 普通株式を長期保有
- ガバナンス・安全管理体制の一元化



サステナビリティ 全ての事業活動の基盤

空港運営を確実に引継ぎ

民間企業としての健全性を確保

しながら持続的成長を実現

- 安全・保安をすべてに優先する組織風土
- 地域住民の方々との交流を促進し、地域とともに成長・発展
- 一人ひとりが変革の主役となり誇りとやりがいをもつ「働きたい空港」を実現

地域と共生する事業

- 環境負荷の低減
- 空港周辺環境対策事業の継続実施(騒音対策等)
- 桜の植樹活動等に対する実施支援

空港利用促進事業

- 地域間連携による航空需要拡大
- 仙台空港国際化利用促進協議会との連携した就航路線PR活動



安全・保安体制

- 代表企業の交通インフラ事業と連携した安全・保安体制

- ・ 多面的な視点にモニタリングの実施
- ・ スイスチーズモデル体制

- 社長直轄の「安全推進室」設置

- ・ 保安業務の担当部門から独立した社長直轄部門
- ・ 外部機関との協議・調整を一元的に実施

- 「仙台オペレーションセンター」創設

- ・ 空港基本施設、旅客・貨物ターミナルビルの包括的・一体的な管理を実施
- ・ 空港の安全運用のための航空保安、警備・防災、ファシリティマネジメント部門



スイスチーズモデル:
 事故発生のメカニズムと事故防止の安全体系として活用。ルール、保安設備、体制(人)の安全対策を1枚1枚のチーズで表し、チーズに空いた穴(事故要因)が重なった時に事故が発生するという考え方を安全保安管理に利用。

北九州空港と視察先空港の概要一覧

区分		北九州空港	福岡空港	仙台空港	
基本 施設	種別	国管理空港	国管理空港	国管理空港	
	供用開始	H18.3	S47.4	S46.12	
	利用時間	24時間	7:00~22:00	7:30~22:00	
	滑走路	2,500×60	2,800×60 【工事中】 2,500×60	(A) 1,200×45 (B) 3,000×45	
運営	コンセッション	—	運営開始：H31.4~	運営開始：H28.7~	
運航 利用 状況	旅客定期便 就航状況	国内	運航	運航	運航
		国際	運休	再開	運航再開予定R5.1~ 仙台⇄台北（台湾）
	貨物定期便 就航状況	国内	【予定：R6.4~】 羽田・成田⇄北九州	—	—
		国際	仁川⇄北九州	—	—
	旅客数 (R1) *コロナ前	国内	1,375,889人	17,566,603人	3,339,002人
		国際	225,298人	5,468,975人	379,178人
		計	1,601,187人	23,035,578人	3,718,180人
	旅客数 (R3)	国内	481,505人	9,440,303人	1,651,407人
		国際	0人	26,229人	2人
		計	481,505人	9,466,532人	1,651,409人
	貨物取扱量 (R3)	国内	2,214トン	119,084トン	1,273トン
		国際	19,605トン	26,507トン	0トン
計		21,819トン	145,591トン	1,273トン	
アクセ セス	バス	エアポートバス：3路線 福北リムジンバス：1路線	18路線 県内・佐賀県・長崎 県・大分県・宮崎県・ 山口県	3路線 県内	
	軌道系	—	地下鉄	鉄道	
	駐車場（収容台数）	1,780台	国内・国際計 1,437台	第1・第2計 1,823台	

資料：各空港HP等